



高3でCEFR B2の英語力を獲得する戦略 目標設定と検定選び

松蔭中学校・高等学校 英語科 グローバル・ストリーム(GS) 主任

篠原 弘樹

shinohara-h@shoin-jhs.ac.jp

1.はじめに	p.1
2.目標はどこ? カリキュラムの自己チェックはどうしている?	p.1
3.最終目標に到達するためには高1と高2が重要。 どの検定を用いる?	p.3
4.予想される質問	p.6
5.最後に	p.7



Danke Sehr

1. はじめに

今回のレポートでは、高校3年生卒業時の英語レベルとしてどういう目標を設定し、そこにたどり着くまでには、どのような検定を受けていくかについて紹介する。当然ながら状況は学校の進路

指導や教科指導の方向性によって、変わってくる。目標設定や検定選びについて、少しでも参考になれば幸いである。ある教員のある考え方だという視点で、一読いただければ嬉しく思う。

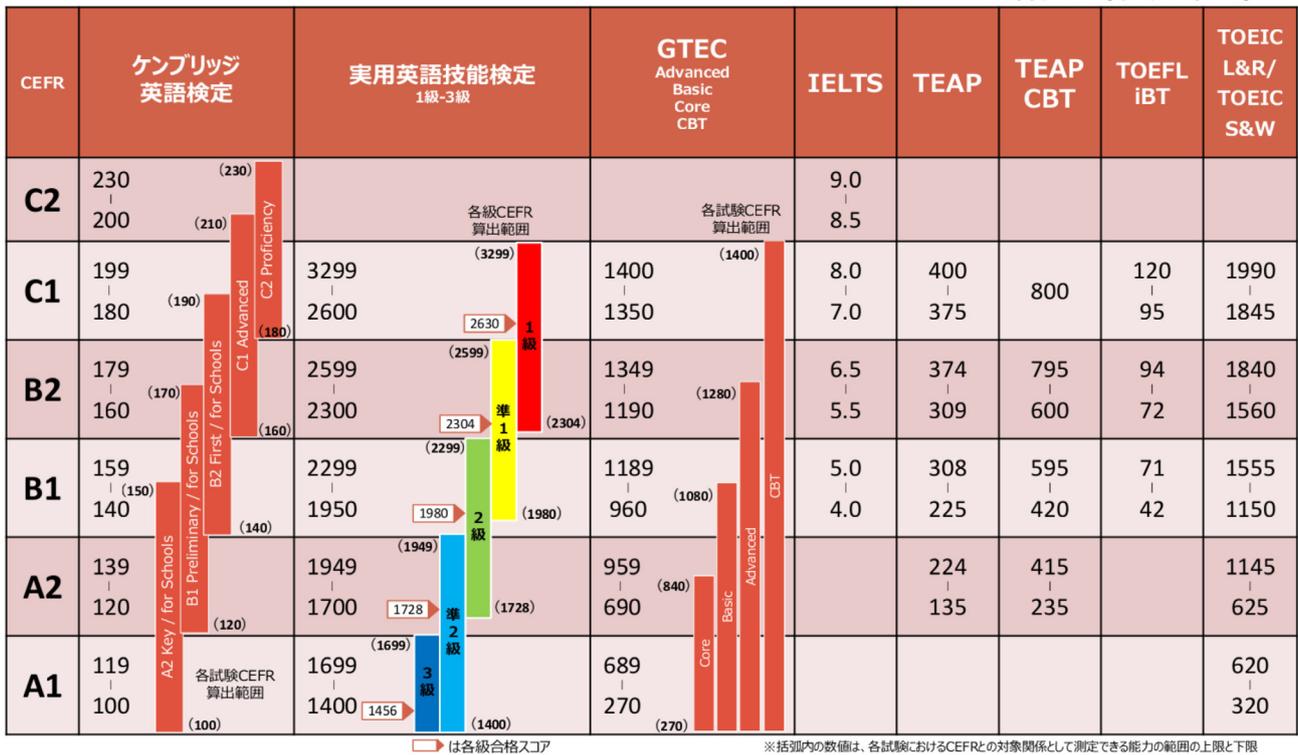
2. 目標はどこ?カリキュラムの自己チェックはどうしている?

多くの学校で英語の検定試験が利用されている。そこで是非、以下の項目についてチェックしていただきたい。御校の生徒たちは、2つ以上の検定を見比べた場合、以下のCEFR対照表

で同等のスコアをとれているだろうか。また、CEFRが示す具体的な能力を身に付けているだろうか。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省 (平成30年3月)



1. □ CEFR B2 チェック

例：英検準1級に合格した生徒のTOEFL iBT®のスコア
TOEFL iBT®で72以上のスコアがあるかどうか。

2. □ CEFR B1 チェック

例：英検2級に合格した生徒のGTECやTOEFL Junior®のスコア
GTEC advanced(960↑) や TOEFL Junior® (740↑) のスコアがあるかどうか。

またこれまでや、現在指導している生徒の名簿を見ながら、次のCEFR B2とB1のレベルに相応する生徒は、どの生徒でしょうか。CEFRのB2の「3」とB1の「4」を比べるならば、B2 はどんな話題でも読めて、話せて、英語を話すのに抵抗

がなく自然とコミュニケーションがとれる。その一方で、B1になると、あらゆるものというよりは、個人に関わることについては対処できるという具合である。

3. □ 以下の能力がある具体的な生徒名

CEFR B2: 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。

4. □ 以下の能力がある具体的な生徒名

CEFR B1: 仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

チェック項目の特にB2の「1」は、指導チェックには有効で、例えば、御校の教科指導のみで英検準1級に合格した生徒が、TOEFL iBT®でもそれなりのスコア(72↑)を取り、なおかつ「3」にも直観的に当てはまるというのであれば、御校の英語教育は間違いなく、日本における英語教育の理想のプログラムであると思う。またB1の「2」に関しても同様で、高校の早い段階で英検2級を取得した生徒が、GTECでもTOEFL Junior®などでも同等のスコアをとり、英語圏の海外研修にいてもそんなに困らない、そういう状況であれば、それは理想の教育の流れだと思う。

次に目標について考えると、御校の高校3年生卒業時の英語力目標はどのあたりだろうか。全員が英検2級取得、それともGTECでB1レベルをとることだろうか。きっと卒業時点でB1の力

があれば十分という学校が多いただろうが、世界基準の英語教育で考えるならば、理想は高校卒業時にCEFR B2に到達することである。多くの英語圏の大学が、TOEFL iBT®80以上のスコアを海外の入学者に求め、同じアジア圏の中国、韓国、台湾といった国がCEFR B2を高校卒業時の目標としている。

現在の文部科学省は、英語教育の目標をA2の達成者を増やすこと、またB1をも射程には入れているが、**世界基準でみるならばその数値は正直、低い。将来、世界で活躍していく人材を育成していくという視点で考えるならば、やはりB2を目指していくのが理想の形である。**ただそう言うものの、おそらく大半の学校がその理想を叶えられていないのが現実ではないだろうか。本校で実際にあった問題点を紹介する。

【本校の問題】

①英検準1級取得者がTOEFL iBT®に太刀打ちできない問題

中高6年間の指導で、中1でアルファベットから学んだ生徒の数名が高校2年生あたりで英

検準1級を取得。高校3年生でTOEFL iBT®にチャレンジしたところ、70に届かない。初めて

受けたスコアが45～60 (CEFR B1レベル)。半年間対策を行ってやっと70に届くかどうか。そのスコアに届いても、上の「3」の能力があるとは感じられない。「3」の力があると思えたの

は、英検準1級を取得し、GTECでもB2スコアをとり、TOEFL iBT®でも80以上とれていたほんのわずかな生徒のみだった。

②英検2級合格者が例年よりアップ!だけど、英検のみ!

英語4技能を意識しながら指導を行い、英検2級についても高1で多くの生徒が取得。ただ、GTEC advancedを受けると、英検2級取得者の70%が960以下、「A2」との判定。英検2級でB1と判定されても、他の試験ではB1と判

定されず、「4」の能力があるとも思えない。しかし、英検2級に合格し、GTECでもB1と判定されている生徒をみると、「4」の能力についてはあると思える生徒が多かった。

【カリキュラム改定に向けて、①と②から学んだこと】

- 大学入試をも踏まえて長文読解に取り組みすぎて、スピーキングや統合的なライティングの指導が弱かった。またアカデミックなリスニングになると弱い。
- 多読的な指導が少なく、スキミングといったスキルが不十分。簡単な英語を速読や普段使用の英語のトレーニングが必要。

つまり、理想は、中高6年間の英語教育で国際基準でもある CEFR B2レベルを身に付け、なおかつ「3」の能力を身に付けることである。学校の英語カリキュラムチェックには、1つの検

定だけでなく2つの検定でチェックし、なおかつ直感的な生徒判断をも考慮すると、今行っている英語プログラムの穴とも言える部分が見えやすい。

3. 最終目標に到達するためには高1と高2が重要。どの検定を用いる?

不思議なものだが、中学3年生までに英検準2級や高校1年生で英検2級に合格するという学校は多い。しかし、高校の早い段階でそのレベルに達していたとしても、**CEFR B2まで「多くの生徒が到達しました」という声はあまり聞かない。**大学附属校であれば、進学のために英検2級や他の検定でCEFR B1の基準が求められ、指定校推薦でも同様の条件が求められることがある。英検2級合格があたかも最終ゴールになっているような風潮があるのも事実であろう。ある意味、それも目標値が低いことが原因とも考えられる

が、そもそもの最終ゴールへ導く手法が確立されていないからのように思える。

最終ゴールが「B2」であるならば、それが英検準1級でもGTECでも TOEFL iBT®でも構わない。それぞれの検定試験には特徴があり、その生徒の目的に応じて検定を選べばよいと思う。B2を適切に測る検定となると、学校での団体受験も利用できず、最終的には個人の取り組みに委ねられる。ただし、先述のように**CEFR B2の「3」の能力を育成する教育プログラムを英語教員は実施し、高3の時点でそれを生徒が証明で**

きる検定を受けてこられるように力を育成していくべきである。

そうなると、やはりネックとなるのは、中学3年生～高校2年生あたりで、どのように英語の検定を利用しながら生徒たちの英語力を測り、教育プログラムを構築していくかである。多くの学校

で、中3や高1で英検2級を取得している現状がある。そこから最終の高3でB2を取得できるレベルまでどう引き上げていくかが、今最も考えるべき点ではないだろうか。

そのような視点にたった場合、以下の質問について1度、考えてみて欲しい。

【状況】 高校1年生入学時前や早い段階で大半の生徒が英検2級に合格する。

【問い】 大学受験や進路を踏まえて、英語科で導入して活用していく英語検定試験を選びなさい。

- (A) 実用英語技能検定(英検)準1級
- (B) ベネッセのGTEC advanced
- (C) TOEFL Junior®

非常に難しい問題である。みなさんはどう答えるだろうか？ 本校では、かつては(A)の英検を中心に取り組み、(B)のGTECについても導入したことがあり、現在は(C)のTOEFL Junior®

に落ち着いている。きっと、多くの学校で同様の議論がなされてきたと思う。

まず、私自身の直観的な回答を述べると、

- 高校生1～2年生前半には、英検準1級は重すぎる、GTECは軽すぎる、Junior®はちょうど良い。
- 高校3年生からは個別対応でTOEFL iBT®、英検準1級、GTECなどに切り替えていく

これまでその3つの検定試験を活用してきた経験から言うと、それぞれの検定にはそれぞれ

のメリットがあり、またデメリットとなる部分もある。

回答(A) 英検準1級

英検準1級を目指して全体指導を行うのも1つの案である。大学入試問題と類似する点が多いので、入試対策にも直結する。最終ゴールが国公立大学や難関私立大であるならば、学校の4技能の指導を活かしながら、英検準1級合格を目指すのも良い。ただ、全員が難関大を目指すレベルではなく、それ以外の生徒も在籍するならば、準1級は難しすぎる。まだ他教科で学ぶ知識も乏しい高校1年生にとってはハードルが高すぎる。

回答(B) GTEC Advanced

短い時間で量を読む共通テスト対策にもなり、4技能の習熟度も分かり、普段の学習の成果を確認できる。問題の内容自体が軽いものが多いので、多読的なトレーニングにもなる。高校1年生の段階で、コースや学校全体で受験するならば、適切に英語力を測れるであろう。ただ、英語力が高い生徒(CEFRB2中以上)には、物足りなさを感じる。絶対評価であることから、1問間違えると減点となる。学年が上がるにつれて力がついてくると、英語力というよりも、いかにミスなく解答できるかを測るテストの印象が強くなる。

回答(C) TOEFL Junior®

2技能で値段が安く、GTEC同様、短い時間で多くの問題を解く必要があり、共通テストと相関する部分が多く、英検準1級のようなアカデミックな問題もある。ただし、スピーキングやライティングを測る部分がない。実際にはあるが、別料金。

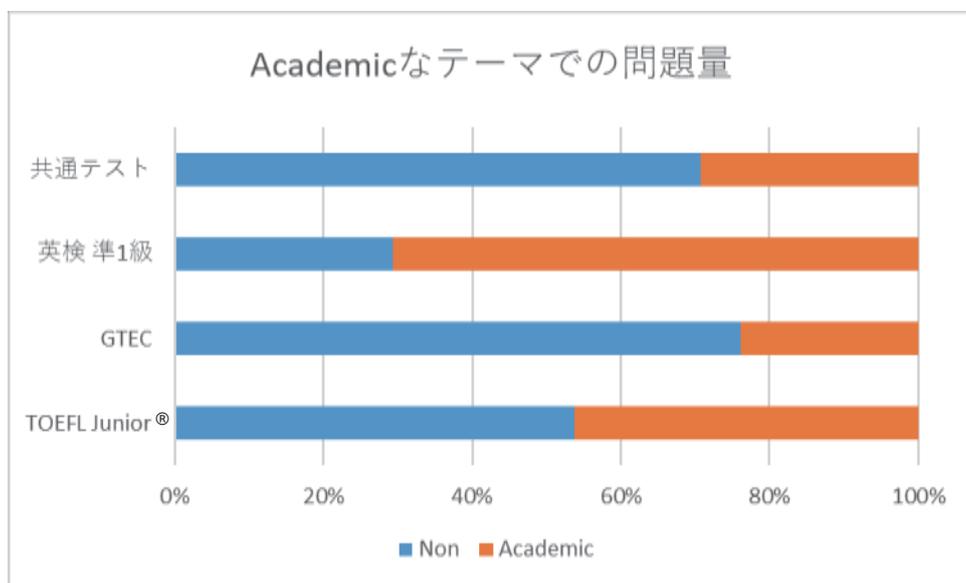
ホームページなどに公表されているデータや独自に問題の傾向を分析すると、直観で得られていたものについても納得がいく結果がでてくる。まず、CEFR基準での各検定の測定領域をみると、以下ようになる。実用英語技能検定(英検)の黒は合格ラインを示す。

推奨学年		A1	A2	B1	B2	C1
英検2級	高校生		■	■		
英検準1級	大学生			■	■	
GTEC Advanced	高校生	■	■	■	■	
TOEFL Junior®	中高生	■	■	■	■	
TOEFL iBT®	大学生			■	■	■

英検準1級が高校1年生には難しく感じるのは、そもそもの適切な測定領域がB1の少し上からであり大学生向けであること、そしてGTECが高校1年生にはちょうど良く、英語力の高い生徒には物足りなさを感じるの、その測定領域がA1

～B2中ぐらいであることを考えれば納得がいく。

またリスニングとリーディング(4択の文法や語彙問題を除く)の問題の量を、それがアカデミックなテーマであるかどうかで単純な割合を出しても、直観的な部分と相関するデータが得られる。



やはり英検準1級は、アカデミックな内容が多く、GTECは少なく、Junior®はその中間。22年度の共通テストも同様の基準で考察すると、GTEC advancedと構成がよく似ているのが分かる。

従って Junior®がちょうど良いと感じられるの

は、まず測定領域がA1からB2で幅広い英語力を測れること、そして対象が中高生向けであり、普段使いの英語からアカデミックな問題でバランスが良い。国公立2次対策や難関私立大対策をかねてアカデミックなものだけをしていると、簡単な英語をたくさん処理する普段使いの英語に

弱くなり、反対に普段使いの英語だけをしていると共通テスト対策にはなったとしても、大学受験も含めてアカデミックなものに弱くなる。そういう視点で考えると、2技能の試験ではあるが、TOEFL Junior®のバランスが良く、高校1年生や高校2年生が受ける検定としてはちょうど良いと思う。十分な力を着けて、TOEFL Junior®で高得点を取れるようになっていけば、高校3年生になる頃には、どのような試験でも対応可能であろう。

そして十分な力をつけ、高校3年生では必要に応じてB2を測る試験を受ければ良いのではな

いだろうか。日本の難関国立や難関私立の筆記試験対策を兼ねるなら、英検準1級が良く、そうではなく普段使いの英語をさらに磨きたいならGTECの受験も良い。AO入試や海外大学、または進学先で海外留学を目指すなら、IELTSやTOEFL iBT®一択であろう。進路が見えてくる高校3年生に関しては、受験戦略を含めてそれぞれの目的に応じて受けていけば良い。ただ高校2年生の終わりまでは、CEFR B2を目指して、バランス良く力を伸ばしていく、それが全体指導の目指していくべき方向性だと思う。

4. 予想される質問

①「B2」と判断される試験には特徴があり CEFR とは別物では？

目指す目標は「B2」を示す検定に合格することではなく、どの検定でも「B2」と判断される力である。英検準1級だけを目指す、GTEC advanced だけで目指す、というのは可能であろうが、それはその試験だけの勉強にならないだろうか。あくまでも育成すべき力は、最初の

「3」にある CEFR B2の力である。極端すぎる言い方かもしれないが、**十分に力がついている生徒であれば、どのような検定であっても少しの検定対策で点数は出る**、が事実である。そういうレベルまで、生徒を引き上げることが求められているのではないだろうか。

②TOEFL Junior®は2技能、スピーキングやライティングはどう図る？

英検やGTECは4技能の試験であり、TOEFL Junior®は2技能の試験である。そのため、スピーキングの外部評価ができない、という声もあるだろう。

ただ、英検2級を大半が取得するような学校であれば、オンライン英会話を利用していると思う。有名どころでWeblioやDMM英会話があるが、そういうサービスには、英語レベルチェックのテストがある。校内で利用できるサービスがあるならば、そちらで代用は可能である。実際、本校では長期休みごとに導入しているサービスの無料オンラインのスピーキングテストを

利用しているが、生徒たちの力はそのテストで測ることができている。もしそういうものがなければ、定期的に何かしらのスピーキングテストを導入すれば良い。その結果を踏まえて、極端にスピーキングが弱いのであれば、その対策を考え、授業にスピーキングの演習を組み込めば良い。また、CEFR B2を測れる検定を最終的に利用するならば、**途中の段階では、スピーキングに関しては何かの検定に絞る必要もないであろう**。普段からオンライン英会話を利用し、定期的に到達度チェックを実施しているのであれば、なおさらそう感じる。

ライティングについても同様である。どの学校でも今はエッセイライティングの指導があるのではないだろうか。またリーディングを読んでまとめたり、意見を書いたりすることがあるのであれば、ループリックを用いて評価もしているであろう。そうであるならば、校内でもライティングの力は測れる。英検でしか測れない、GTECでしか測れない、というわけではない。校内のエッセイ指導で、上手く書ける生徒が、そのような検定を受けて悲惨な点数をとってくることはま

ずない。従って定期的に英語エッセイやレポートを書いているのであれば、そもそも受ける必要性が感じられない。実際、きちんと学校で指導していれば、特別な検定のための授業がなくても英検2級のライティングで高得点をとってくる。英検2級の合格者を多々輩出している学校であれば、なおさらそうではないだろうか。それと同様に、普段から書いて、段階的に色んな表現技法を学んでいるのであれば、改めてライティングの検定を受ける必要もないと感じる。

5. 最後に

これまでの日本の英語教育で、CEFR B2の力を育成するという目標は、叶えられてこなかったと思う。英検準1級やTOEFL iBT®80以上という目標は、各生徒個人の頑張り次第。学校やコース全体をそこまで引き上げていくという考えはあったとしても実現してこなかったと思う。正直、今の世界情勢を考えるならば今の日本の高校の英語力の目標は低い。しかし英検2級あたりまでを中学3年生や高校1年生で取得できるならば、B2まではきっと引き上げられるのではないだろうか。同じアジア圏の中国や韓国が行っていることを日本でできないはずがない。夢物語と言われるかもしれないが、英語教員であるならば世界基準まで生徒を引き上げたい。そこへ到達するためにどうするかを考えて実行していくこと

こそが、今の英語教員に求められることではないかと強く感じている。

本校でも CEFR B1 (英検2級程度)までの指導は、中学1年生から英語を始めたとしても指導次第で高校1年生あたりで届く。しかし、そこからの CEFR B2まで上手く引き上げる指導方法がなかなか確立できていない。大学受験対策ばかりしていると普段使いの英語に弱くなり、普段使いの英語ばかりを行うとアカデミックな問題がでる大学受験にも対応できなくなる。そのバランスを考えながら、カリキュラムを考え、検定で力を測り、英語カリキュラムを振り返る。そして、力をつけていき、高校3年生ではCEFR B2の力をつけ、検定でもその力を証明し、希望する進路を実現していく。そんな流れになれば良いと思う。

著者紹介

篠原 弘樹 松蔭中学校・高等学校 グローバル・ストリーム主任、英語科

1979年兵庫県生まれ、大阪大学大学院文学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学

大学院では英語学(語用論、語法研究)を専門とし、英語教育ではESP(English for Specific Purposes)教材開発に携わる。

高校・大学非常勤を経て、2013年度より現職へ。

マイクロソフト認定教育イノベーター 2022-23 (MIEE : Microsoft Innovative Educator Expert)